

令和7年度 高尾山学園学校経営報告書

I 学校経営評価の方法

1:教職員による学校経営評価

- ・学習指導、生活指導など教育活動全般に関する評価アンケートを前期後期各1回実施
- ・教職員による学校経営計画の重点目標に対する評価アンケートの実施と考察
- ・保護者及び児童・生徒によるアンケート結果に対する考察

2 保護者及び児童・生徒による学校経営評価

- ・教育活動全般に関する評価アンケートを前期後期各1回実施

3 学校運営協議会委員による学校経営評価

- ・学校運営協議会においてアンケート結果と考察を示し意見をいただく

II 評価アンケート集計結果とその考察の概要

各項目は、引き続き「分からない」という選択肢を設定し5段階で評価。前後期を通じたアンケート考察の概要は、以下の通りである。

1 保護者及び児童・生徒による教育活動全般に関する評価の概要

① 教育方針の周知

- ・肯定的意見が大半だが、保護者の認知としては7割弱だったため年度末保護者会で改めて周知した。

② 特色ある学校づくり(少人数指導・居場所づくり・体験活動・SSP・地域との連携)

- ・通常の学校活動に近い形で運営できており肯定的な意見が多い。コミュニケーション力が不足気味の子に対してはきよたき教室併用も推奨している。

③ 小中一貫教育

- ・行事に関しては精選しており基本的には子どもたちも楽しみにしている。特に新緑際などにも取り組み冬迎祭と併せて高評価となった。

④ 人権教育

- ・概ね高い結果であった。SSPも学年ごと実態に合わせて取り組んでおり、教育目標の一つである「気持ちを感じあえる人になろう」の成長へとつながっている。

⑤ 学級経営

- ・概ね落ち着いて学習できると回答している。高尾タイムは完全に定着している。

⑥ 学習指導

- ・概ね良い結果である。学年が上がるにつれて意欲的な子が多くなる一方、学年が下がるにつれて学習面での苦手さを感じる子が多い。毎年同じような状況ではあるが年々強くなる傾向がある。

⑦ いじめ防止への対応

- ・日常の情報交換の中で気になる子どもは多いが学校いじめ対策委員会も機能しており、今年度いじめは発生していない。ただし前籍校でのことや体験を引きずっているケースは変わらず多い。

⑧ 生活指導(全般・教育相談・安全指導)

・概ね良い結果である。心に寄り添うことは職員にも浸透している。教育相談は登校支援チームとの連携をしているがSSWが関わっている重いケースは年々多くなっている。

⑨ 環境整備

・清掃活動&美化委員会活動は基本的に定着している。また、SSSによる補助がよりよい環境づくりにつながっている。

⑩ 適切な評価

・本校では中学2、3年生でコース別学

習を取り入れており、子どもたち一人ひとりの心に寄り添いながら指導を行っている。小学部は未学習や発達に偏りのある子も増えており少人数での対応をしている。

☆保護者アンケートの回答率は以前よりも向上しているが5割程度で高止まりしている。副校長の呼びかけにより、花壇ボランティアの活動が増えている。毎月転入も定着してきているがSSWの抱えるケースの見学者も年々増えている。対応の難しい子も多く転入に繋がるまでいかず、やまゆり教室で止まってしまうケースも散見される。保護者の期待に応える一方、不安定な子どもも多く在籍している。やまゆり支援チームをつくり登校支援室と連携しながらやまゆり教室の支援体制を構築したが逆に転入する子どもが増加し、特に小学生の転入が増え、受け入れ人数は物理的に逼迫傾向にある。

2 教職員による学校経営計画の重点目標に対する評価の概要

- ① 面談・学校公開・保護者会への参加率は高止まり傾向であり、一方通行でしか連絡が取れない保護者も一定数いる。一方でSSWが入る家庭も多くあり教育現場での対応は難しさが上がっている。
- ② SSPは常に内容を吟味して実施することが定着している。今年度は、校内研修も実施し、改めてSSPの実践内容について共通理解をもって取り組む体制を構築することができた。
- ③ 相談体制については登校支援チームとの協力関係が更に向上しており良い連携が出来ている。難しいケースは相変わらず多く心理相談員のケアも必要と感じている。

☆学びの多様化学校の視察が大変多く、特に文部科学省のCOCOLOプランにより各自治体からの問い合わせはさらに増加している。東京都の不登校対策教員の研修を担当することにより、本校の取組を広めるとともに、地域の学校における不登校対策を促進することができた。研修体制については、さらに充実した体制にすることが次年度での課題と考える。職員全体が不登校の拠点校としての自負を持ちつつモデル校として研鑽に努めていきたい。

III 学校運営協議会委員による学校経営評価

アンケート結果と考察に関する意見として特に大きな課題は指摘されておらず、改善結果を踏まえ概ね高い評価を頂いた。昨年度に続きオンラインを活用しての学運協も定着できた。

- ・日頃の先生方の努力に敬意を表したい。
- ・他校の職員への研修については成果を期待するとともに、今後もモデル校として対応していきたい。

- ・児童生徒が増加している現状から多様化学校の設置を広げていく必要を感じる。
- ・やまゆり教室への支援や放課後カフェなど効果が出ていると感じる。

以上を学校運営協議会から意見としていただいている。

IV 令和8年度の教育活動への反映

- ① 学運協委員は男女バランスも 50:50 と良く原則継続をお願いしている。特に学芸大学との関係作りも順調に進んでおり、学びの多様化学校と教員養成大学との関係についても関わり方や今後の体制について新しく構築していきたい。学運協主催の「放課後カフェ」も成功しており継続予定である。
- ② 「やまゆり教室」の利用者は増加の一途であり併せて本校の在籍者も増えている。学運協とも連携しながら教育の質を落とさないよう市とも連携していきたい。
- ③ 転入学については研究主事の体制強化など市教委と連携し不登校改善に取り組む。
- ④ やまゆり支援チームによるやまゆり教室の支援を継続しつつ、やまゆりカフェをNPOと連携して開催し不登校改善初期段階の保護者支援を行う。
- ⑤ キャリア教育の観点からも外部人材を取り入れ勤労の意義を子供たちに伝える場を継続する。
- ⑥ 多様化学校のモデル校として評価評定なども他の自治体・学校の手本となるよう取り組んでいく。
- ⑦ 教職員の資質向上を図るため、引き続き研修の計画的な実施を図り、児童・生徒理解と指導力の一層の向上を目指す。必異動の教員については他の特例校との交流見据えていきたい。
- ⑧ 増加傾向にある本校児童生徒への対応のため市教委と連携し抜本的な対策を検討したい。

以上